



INTERPOL MEDIA RELEASE

インターポール（国際刑事警察機構）と製薬企業は偽造医薬品に対抗するためのグローバルな取り組みを開始

リヨン（フランス）－このたび、インターポールと世界の大手製薬企業29社は、人々の健康を脅かす世界的な偽造医薬品による被害に対抗するため、画期的な合意に至りました。

今回の合意に基づき、4.5百万ユーロに相当する3年間の契約によって、インターポールの医薬品偽造・医薬品犯罪（MPCPC）ユニットに新たな任務として医薬品犯罪プログラムを創設します。より強固なパートナーシップの進展によって、各国の医薬品犯罪への対応において更に強力な法的措置を執ることが可能となります。

本プログラムでは、ブランド医薬品およびジェネリック医薬品の偽造を含むあらゆる種類の医薬品犯罪の防止ならびに、毎年巨額の不正な利益を得ている違法行為に関与している組織的犯罪網の同定と解体をめざしています。

インターポール総裁、ロナルド K. ノーブルは「偽造品の脅威に曝されていない国、医薬品、医療用品はありません。日々数多くの人々の生命を危険にさらしているこの脅威に、グローバルな取り組みで対応していく必要があります。」と述べ、「製薬29社のサポートは、公的機関と民間企業の有効な架け橋となり、インターポールとその加盟190カ国が医薬品偽造問題により効果的に取り組むための大きな支援となります。」と付け加えています。

本プログラムにおいて重要な目的の一つとして、インターネットで医薬品を購入する人々に、偽造医薬品の危険性への意識を高めることです。世界保健機関（WHO）によると、所在地を隠している違法なインターネットサイトから購入した医薬品の50%以上が偽造医薬品であると推定されています。

2012年にインターポールが支援する100カ国で展開する「Operation Pangea V」は、違法な医薬品オンライン販売の背後にある組織的犯罪網を崩壊させることを目的とし、その結果、逮捕が約80件、押収された生命を脅かす可能性がある偽造医薬品が世界で375万点（1,050万米ドル相当）でした。

エーザイ社長（CEO）の内藤晴夫は「ブランド医薬品とジェネリック医薬品のどちらも患者様の生命を危険にさらす偽造品による被害を受けています」と語っています。「そのため、製薬業界は人的支援を含めてインターポールと協力し、医薬品偽造・医薬品犯罪ユニットの活動範囲を広げています。我々は、医薬品偽造と医薬品犯罪を防止への取り組みを強化するために包括的なイニシアチブを立ち上げるというインターポールの決定を全面的に支持します。最終的には、この取り組みによって世界中の患者様を守ることをめざしています。」

本プログラムはトレーニング、能力開発ならびに、この問題に対する認識を高める活動を行うとともに、偽造、密売および違法流用のようなあらゆる医薬品犯罪に関連する組織的犯罪網分裂・解体を支援します。

サノフィグループCEOのクリストファー・ヴィーバッハーは、「医薬品偽造の事例では、患者にとって生死を分かつ場合がある」と語る。「医薬品の10パーセントは偽造品と試算されており、特に一部の貧困国においては、50パーセントに上ると言われています。そのため、業界各社がインターポールとパートナーシップを組んで世界中で協調して法的措置を執ることによって、インターネット上や小売店での偽造医薬品の抑止に貢献できると考えています。」

感冒シロップ剤やその他の医薬品の偽造品に混入していたジエチレングリコールが原因で、2006年パナマで100人以上の死亡者が出たことを含めて、世界中で8件の集団中毒が起きました。また、2012年パキスタンで、109人の心臓病患者が偽造医薬品を服用して亡くなっています。

イーライリリー・アンド・カンパニー会長、社長兼CEOのジョン・C・レックライターは、「医薬品偽造者は、品質不良や時に生命を危険にさせる医薬品を生産し、世界中の患者の健康を危険にさらしています」と述べています。「偽造に終止符を打つには、世界規模の広範な連携協調活動が必要である。今回の製薬業界とインターポールの新しいイニシアチブは、患者が医薬品の安全性と有効性を信頼し安心して服用することができるように保証することをめざしています。」

医薬品犯罪には偽造、盗難、違法医薬品および医療機器についての製造、売買取引および流通があります。医療品、包装および添付文書などの偽造、改ざん、および窃盗、詐欺、違法流用、密輸、密売、およびこれらに関連する資金洗浄の全てを含みます。